

編集後記

この度、『政治学研究』第66号が無事発行される運びとなりました。長い歴史を持つ『政治学研究』の編集に微力ながらも携われたことを喜ばしく感じています。

本号は三田論号として、法学部政治学科の研究会所属の3・4年生方に多くの論文をご寄稿いただきました。社会学から日本政治・国際政治、はては政治思想など幅広い学問分野を網羅しており、どの論文も大変示唆に富む内容となっております。コロナウイルス感染拡大の影響で、本年度は三田祭論文の執筆を断念されるゼミナールが多くあり、例年よりも収録論文数が少ないものの、一つ一つの論文に込められた切実な思い、そして、著者が論文の中で立ち上げた個性や価値観が反映されており、例年に勝るとも劣らない示唆に満ち満ちています。私たちも一学生として拝読した際に、浩瀚な知識とひたぶるな努力に感銘を受け、知的好奇心を刺激されました。

二年間のコロナ禍を経た学習環境は、昨年度と同様に、級友と机を並べる日常とはほど遠く、多くの方々に歯痒さを与えるものでした。それでも復帰の兆しを追い求め、学問の場だけでなく課外活動

も非対面方式に最適化させながら、新しいキャンパスライフを模索したことと想います。そして、困難な時代を生きた学生がその困難性を昇華して完成させた『政治学研究』もまた、歴史的転換の足跡として新たな意義を持ち始めました。コロナ禍だからこそ各々が自身を見つめ直し、再発見し、再構築した「自分らしさ」の営為とも言える『政治学研究』に目を通していただき、執筆された学生の興味関心に加え、論文にかかる熱意を感じ取っていただければ幸いです。

最後に、この『政治学研究』の刊行にあたり、ご寄稿に関わっていただいたすべての方々に改めて感謝を申し上げます。また、本論文集の序文で巻頭を飾ってくださった小嶋華津子教授、ご指導いただいた大久保健晴教授に心よりお礼申し上げます。そしてご多用の中、私たちの編集作業を支えてくださり、柔軟なご対応で発刊にご尽力いただいた慶應義塾大学出版会の堀井健司様に心からの感謝を申し上げます、編集後記に代えさせていただきます。

法学部政治学科ゼミナール委員会
政治学研究編集担当
藤巻 寛輝（河野武司研究会）
宮崎 棕成（澤井 敦研究会）

令和4年3月15日印刷 令和4年3月20日発行（非売品）

政治学研究 第66号

編集兼
発行者 ©慶應義塾大学法学部政治学科ゼミナール委員会
東京都港区三田2-15-45
製作 慶應義塾大学出版会株式会社
東京都港区三田2-19-30